

## SBI インシュアランスグループ株式会社

### 事業内容と業績に関するご質問・ご回答 (FAQ) (2023年8月)

#### 資料・動画

[資料] 2024年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結) (2023年8月9日)

[資料] 2024年3月期第1四半期決算説明資料 (2023年8月9日)

[動画] (IRTV) 2024年3月期第1四半期決算の概況 (2023年8月10日)

事業内容や業績に関して、よくいただくご質問とご回答の要旨を以下に掲載しております。

---

**Q1 : SBI インシュアランスグループにおいて取り扱いが1番多い商品は、どの保険ですか。**

**また、対面募集・非対面募集の構成比を教えてください。**

**A1 : 保有契約件数が1番多いのはSBI 損保が提供しているダイレクト型の自動車保険です。**

この自動車保険の構成比は全保有契約の4割強、二番目は賃貸物件向けの家財保険や主に銀行で取り扱う火災保険で3割弱、この二つで全保有契約の7割弱を占めています。

これらに続くのが、近年、急成長している団体信用生命保険で、既に全契約の1割を占めています。残る2割程の保険には、死亡・医療・がん、ペット、地震補償などの保険契約があ

ります。これらの保険契約を主要販売チャネルで大まかに対面募集・非対面募集に分けると、

全保有契約の半分以上が非対面募集の契約となっています。(2023年6月末時点)

---

**Q2 : 「親会社株主に帰属する当期（四半期、中間）純利益」が、「経常利益」と比べて、かなり小さくなる理由を教えてください。**

A2 : 生命保険事業に特有の会計処理が影響しています。生保事業の団体信用生命保険は1年に1度決算を行い、剰余の多くを契約者配当金として契約者に分配します。保険会計の損益計算では、この分配金額を特別損益と法人税等の間で契約者配当準備金繰入額として費用認識するため、経常利益よりも税金等調整前の利益の方が大分小さくなります。そして、そこから法人税等合計を控除して純利益としています。

---

**Q3 : 例年、上期の利益が大きく、下期の利益が小さい理由を教えてください。／ 当年度第1四半期の純利益は、既に通期の会社予想額を上回っていますが、業績予想を上方修正しないのでしょうか。**

A3 : 例年、第1四半期（4月～6月）は自然災害が少ないことなどから、利益が大きくなる傾向があり、当第1四半期連結累計期間においても例年どおりの傾向となりました。

（当社ホームページの「決算ハイライト」（<https://www.sbiig.co.jp/ir/highlight/>）では、四半期ごとの主要業績の推移をグラフでご覧いただけます。）

当年度通期の連結業績予想につきましては、第2四半期以降の自然災害等による連結業績への影響を、概ね当初の見込みどおりに推移するものと予想しており、2023年5月11日公表の2023年3月期決算短信に記載した予想値に変更はありません。

※当社グループの保有契約件数の4割強は自動車保険であり、当社の業績は自動車保険の収支の影響を強く受けています。自動車保険では、台風・大雪などの自然災害が続くと、保険会社の利益は小さくなるか赤字となります。逆に、自然災害が少ないと、保険会社の利益は大きくなります。

当年度第1四半期は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で減少していた自動車の交通量がおおよそ回復したことにより、自動車事故および自動車保険の支払保険金が増加した結果、保険業法の規定に基づき積み立てていた自動車保険の異常危険準備金（責任準備金の一部）が取り崩しとなり、利益の押し上げ要因となりました。当年度第2四半期から第4四半期までの収入保険料および支払保険金が、例年どおりの傾向で推移した場合、当年度通期の決算では、異常危険準備金は積み増しとなり、利益の押し下げ要因となる見込です。

---

**Q4 : 昨今の市場金利の上昇は、SBIインシュアランスグループ（株）の企業価値にプラスに働くのでしょうか。それとも、マイナスに働くのでしょうか。**

A4 : 国内大手保険会社と同様で、当社グループも確定利付債を中核としたポートフォリオで資産運用を行っています。債券運用においては、市場金利の上昇は資産価格の下落要因ですので、市場金利の上昇は、短期的にはマイナスの影響があります。他方、長期的には、プラスの要素があると考えています。これまでのような異常な低金利の状態から抜け出し、市場金利が正常化することで、資産運用利益を見込みやすくなるためです。

---

**Q5 : コロナ禍で減少していた自動車の交通量が回復し、自動車事故も増加していると聞きます。**

**S B I 損保の保険金支払いも増加しているのでしょうか。**

A5 : 同業他社と同様で、SBI 損保においても、交通量の回復に伴う動車事故の増加に応じて、自動車保険の保険金支払いが増加傾向にあります。

---

**Q6 : S B I 生命の資産運用方針について教えてください。**

A6 : S B I 生命では、将来の保険金等支払いの確実性を担保するため、ALM に基づき安定した収益を確保することを基本方針としています。このため、確定利付債券をポートフォリオの中核としていますが、一部を投資信託形式で運用しています。また、経営の健全性を十分考慮のうえ、許容できるリスクの範囲内で、内外不動産ファンドなどもポートフォリオに組み入れ収益の向上を図っています。

---

**Q7 : 少額短期保険に大手生損保が参入していると聞きます。競争環境にどのような影響がありますでしょうか。**

A7 : 少短市場への大手生損保の参入により、主に医療保険などの分野で競争が激化してきています。当社グループにとって、大手の参入は悪いことばかりではなく、良いこともあります。大手の参入により、少短保険の認知度・信用力が上がってきています。少短業界は、これまで、認知度・信用力の低さを業界全体の課題としてきましたので、大手の参入をきっかけにその

課題を解決し、市場を拡大していくことができれば、むしろ得られるものの方が大きいと見ています。

---

**Q8 : 同じ S B I グループのアルヒ株式会社や株式会社アプラスとの協業について、プレスリリースを行われています。これら内容について教えてください。**

A8 : 当社グループは、同じ S B I グループの企業で、住宅ローン専門金融機関国内最大手であるアルヒ株式会社（以下、「アルヒ」）との協業を推進しています。

S B I 生命は、アルヒと S B I 新生銀行が共同で開発した新たな変動金利型住宅ローン「ARUHI 住宅ローン（MG 保証）」に対して、全疾病保障付団信の提供を開始しました。

S B I 損保は、ホームページやサービスサイトにおいて、アルヒと商品の相互紹介を実施し、両社の強みを活かした新商品の共同開発などにも取り組んでまいります。

当社グループは、S B I 新生銀行グループの株式会社アプラス（以下「アプラス」）とも協業を推進しています。

S B I 生命は、アプラスのホームページにおいて、S B I 生命の個人向け生命保険商品を販売しています。取扱商品はインターネットでスピーディーにお申込みが完了する商品で、

S B I 生命のインターネット申込専用定期保険「クリック定期！Neo」、 「S B I 生命の終身医療保険 Neo」、就業不能保険「働く人のたより」です。

S B I 損保は、アプラスにおいて「S B I 損保の自動車保険」と「S B I 損保のがん保険」を販売しています。また、アプラスが提供するネオバンク・プラットフォーム「BANKIT®」

における協業に向けた取り組みを開始したほか、7月にはアプラスのカードをお持ちのお客

さまを対象に、「SBI損保のがん保険」団体保険の提供を2023年度内に開始することで合意いたしました。

当社グループは、SBIグループ内の企業やSBIグループ各社の提携先企業との協業を通じて、それぞれの強みを活かした効率的な営業活動や新商品の共同開発などの取り組みを進めています。

---

**Q9：上記事例のほかにSBIグループ内の協業事例があれば教えてください。**

A9：SBIグループには、非常に大きな顧客基盤がありますので、私どもはそれを有効活用して、効率的な保険販売を推進しています。また、SBIインシュアランスグループ内においても様々なグループシナジーを発揮して、単独の会社では実現しえない高い業務効率を目指して業務を運営しています。以下、事例をご紹介します。

(SBIグループにおけるシナジー発揮の事例)

- ・SBI生命が、団体信用生命保険を住信SBIネット銀行などのSBIグループ企業やSBIグループの提携先地域金融機関の住宅ローン向けに提供
- ・SBI損保が、SBIグループの提携先である金融法人・事業法人のお客様向けにがん保険の団体保険を提供

(SBIインシュアランスグループにおけるシナジー発揮の事例)

- ・クロスセルによる商品ラインナップの拡充
- ・販売チャネルの相互補完
- ・マーケティングノウハウの共有
- ・業務提携の共同推進
- ・(少額短期保険事業を中心に) バックオフィス部門、システム部門などの機能の共有化、

共同保険の引き受け、ペット保険の契約者向けサービスの同時採用など

---

お問い合わせ先

S B I インシュアランスグループ株式会社 IR・広報部 03-6229-0881